

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 12月号

1. 柿の生産工程学ぶ

せんだい支店は11月11日、鳥取市立江山学園の5年生18人を対象に、柿の収穫体験を開いた。

収穫体験は同支店柿生産部の山田部長のほ場で行われ、児童が鳥取県オリジナル品種の「輝太郎」の親柿である「太郎丸」を収穫した。

収穫後は選果場で「太郎丸」のほか、「富有」や「輝太郎」など6種類の柿を試食した。

児童は「甘くて美味しい」「こんなに美味しい柿は初めて」と柿を味わい、農産物が消費者に届くまでの工程を学び、生産者への感謝の気持ちを育んだ。

山田部長は「児童がおいしいと食べる姿が嬉しかった。収穫、試食を通して少しでも柿に興味を持ってほしい」と話した。



2. 県庁を表敬訪問

郡家支店柿生産部と花御所柿を育てる会は11月26日、鳥取県庁を訪れ、平井知事に地理的表示（G I）保護制度登録されている「こおげ花御所柿」を晩秋の味覚として届けた。

平井知事は「試食し、改めて花御所柿のすばらしさを感じた。巣ごもり事業やキャンペーンなど県も全力で売り込みを展開していく」と力を込められた。



3. トスクが図書カードを寄贈

J A 鳥取いなばグループのトスクは12月2日、図書カードの贈呈式を小中一貫校の若桜町立若桜学園で開いた。トスクの小谷代表取締役社長が、同学園の児童・生徒に25,500円分の図書カードを手渡した。

この取り組みは学校図書の充実に寄与するためにトスクが実施している、「第31回東部地区小中学校等に図書を贈ろうキャンペーン」によるもの。トスクの買い物客が店舗で発行されたレシートに寄贈したい学校名を記入して投函箱へ応募すると、レシートの合計金額の1%相当額を図書カードにして希望の学校へ贈っている。このキャンペーンは9月1日から1ヵ月間、トスク全店(11店舗)で展開し、図書カード約248,000円分が集まった。



4. シイタケ植菌体験開催

せんだい支店は12月2日、原木シイタケの植菌体験を鳥取市立江山学園で開いた。5年生18人が、原木に肉厚で大きさが特徴のジャンボシイタケ「菌興115号」の形成菌を植菌した。

植菌体験では、鳥取市にある日本きのこセンターグループ菌興椎茸協同組合の西澤さんが、シイタケの栽培方法や特徴、ホダ木の管理方法など説明した。児童らは、ひとり1本の原木に植菌したほか、西澤さんの補助を受けて電動ドリルを操作し1本ほどの原木に50カ所程度の孔(穴)を開ける作業も体験した。

